



らぶく La・BOOK

3月号

No.21

三郷図書館の

文学講座～続・膝栗毛を読む～



一九記念碑前

本年度の「文学講座（全4回）」は、元松本市北部公民館長の清沢由之さんを講師にお迎えして、十返舎一九の『続・膝栗毛』の読み合わせを行いました。第3回（9月12日）は、一九が宿泊した大庄屋、藤森善兵衛の子孫の邸宅前（豊科新田）に建てられた記念碑を経由して、目的地の栗尾山満願寺へ行きました。住職さんのお話をお聞きするとともに、一九直筆の貴重な掛け軸を拝観させていただきました。

また、「十返舎一九に親しむ会」会長の丸山英二さんからは、拾ヶ堰と一九との関わり等についても興味深いお話をお聞きすることができました。200年前の安曇野に想いを馳せながら、“弥次喜多道中”を一層身近に感じることができた講座になりました。



満願寺微妙橋

私と図書館

大学生になり、職業体験をさせていただき、改めて「図書館っていいな…」と思いました。就活に向け、自分が落ち着いて働ける場所はどこなのか、新たな発見ができました。

中学生代に、一番図書館を利用しましたが、その時は本を読むというよりは、受験勉強という目的で利用しました。受験シーズンは焦りが出て落ち着かないことがありましたが、なぜか図書館にいる時だけは、自分を落ち着かせることができました。この時から図書館は、私にとって「癒しの空間」になりました。



癒し図書館

短大生 生田恵未佳

私はインターンシップを、安曇野市中央図書館で、7日間体験しました。中央図書館を利用するのは初めてなので、本の多さにとっても驚きました。実習1日目から100冊以上の本と、100人を超える人たちと出会いました。返却本には、知っているもの、まったく知らないものがあり、どちらかといえば知らないものの方が多くありました。

豊科図書館

奮闘!?調べもの日記(シファレンス)

童謡「めえめえ児山羊」の碑



道祖神や文学碑といった石造文化財について質問をいただく機会がしばしばありますが、その中から、豊科図書館

の隣、近代美術館の敷地内にある「めえめえ児山羊」の記念碑について紹介します。

童謡「めえめえ児山羊」の作詞者は、豊科出身のドイツ文学者であり詩人の藤森秀夫氏。碑が完成したのは昭和39年のこと。記念碑の除幕式が行われたのをきっかけに、毎年5月5日に童謡祭りが開催されています。



【関係資料】

- 『豊科町の石造文化財 碑編』
豊科町教育委員会 1982年
- 『信州ふるさとの歌の風景』
吉本隆行 2002年
- 『信州 ふるさとの歌』
長野県商工会女性部連合会 1993年
- 『豊科町誌 近現代編』
豊科町誌編纂委員会 1997年

ほか

2月貸出ランキング

一般書

- 1 神様のカルテ3/夏川草介
- 2 聖女の救済/東野圭吾
- 〃 インフェルノ 上/ダン・ブラウン
- 4 インフェルノ 下/ダン・ブラウン
- 〃 小さいうち/中島京子
- 〃 昨夜のカレー、明日のパン/木皿 泉
- 7 昭和の犬/姫野カオルコ
- 〃 雪月花黙示録/恩田 陸
- 〃 ペテロの葬列/宮部みゆき
- 〃 村上海賊の娘 下巻/和田 竜

児童書

- 1 バムとケロのシリーズ/島田ゆか
- 2 かいけつゾロリシリーズ/原ゆたか

AV資料



- 1 おじゃる丸/大地丙太郎
- 2 トムとジェリーの大冒険/フィル・ローマン監督
- 3 岳/片山 修監督
- 〃 崖の上のポニョ/宮崎 駿監督
- 〃 さだまさし話のアルバム/新潮社
- 〃 英国王のスピーチ/トム・フーパー監督
- 〃 オデッセイ/平原綾香
- 〃 借りぐらしのアリエッティ/米林宏昌監督
- 〃 剣客商売SPECIAL/井上 昭監督
- 〃 ゴールド/カーペンターズ

本のソムリエ（職員）おすすめ本

明科図書館から

一般書 『二人が睦まじくいるためには』

吉野弘/童話屋

詩人の吉野弘さんの代表作には『贈るうた』『奈々に』等、温かいまなざしで家族をつつんでくれる詩心が溢れています。結婚や出産といった人生の節目に読んで欲しいと思います。

慌しく仕事や育児に追われている方にも、ほっとする清涼感を感じて欲しいです。

表紙

児童書 『ばけばけばけばけ ばけたくん』

岩田明子/大日本図書

大きな目玉の可愛い顔に期待しながら本を開くと、やっぱりふわふわキュートなおばけの子。食べたら化けるばけたくん。いろいろな食べ物に化けていく楽しいお話です。シンプル明快！遊びとユーモア、愛嬌に溢れたおすすめ

表紙

の一冊です。

「2014年本屋大賞」/ミネート作品を手にしてみましょう!

- 『教場』 長岡弘樹/小学館
 『去年の冬、きみと別れ』 中村文則/幻冬舎
 『さようなら、オレンジ』 岩城けい/筑摩書房
 『島はぼくらと』 辻村深月/講談社
 『聖なる怠け者の冒険』 森見登美彦/朝日新聞出版
 『想像ラジオ』 いとうせいこう/河出書房新社
 『とっぴんぱらりの風太郎』 万城目学/文藝春秋
 『村上海賊の娘』 和田竜/新潮社
 『昨夜のカレー、明日のパン』 木皿泉/河出書房新社
 『ランチのアッコちゃん』 柚木麻子/双葉社

編集・発行・お問い合わせ



- 中央図書館 ☎84-0111
 豊科図書館 ☎71-4022
 三郷図書館 ☎76-3078
 堀金図書館 ☎72-5796
 明科図書館 ☎62-1122

図書館ホームページ(蔵書・資料の検索もできます)
<http://www.city.azumino.nagano.jp/tosho/index.htm>

※編集後記※

軽井沢朗読館館長青木裕子さんと一緒に朗読駅伝『柿ものがたり』に参加した。休憩時の青木さんの話の中で、心に残った言葉がある。
 「うまい下手は関係ない。朗読は、何かその人の持つものを表すところがある」
 朗読や読み聞かせは、読み手の人柄が滲み出て、生き方が伝わるものだと思う。